

平成 16 年 2 月 26 日

工夫次第でバリアフリー

“おばあちゃんの原因”「巢鴨地蔵通り」が歩きやすくなりました

旧中山道沿いの巢鴨地蔵通りは、真性寺（江戸六地蔵）や高岩寺（とげぬき地蔵）への参拝や買い物を楽しむ高齢者で連日賑わい、通称“おばあちゃんの原因”と呼ばれている。

区はこのほど、長らく道路工事を行っていなかった同通りの車道部の舗装工事を実施、低コストで工期が短縮できる工法を採用したところ、歩道と車道の段差が緩和・解消され、思わぬバリアフリー化が図られる結果が得られた。

巢鴨地蔵通りは、旧中山道街道口にあたる真性寺から都電荒川線「庚申塚」までの約 770 メートルの商店街。通りの両側には、和菓子屋や食堂、中高年向きの洋品店などが立ち並び、また、毎月 4 のつく日の縁日には露店も出て大変な人出となり、車両通行禁止時間帯には歩道・車道を問わず、たくさんの歩行者であふれ返る。真性寺から途中の高岩寺までの約 200 メートルの間は、すでに車道と歩道の段差が解消されているが、高岩寺から庚申塚までの約 570 メートルの間は、車道との段差約 10 センチの歩道が敷かれており、高齢者が歩くには不便な状況にあった。

また、同通りについては、約 20 年近く舗装工事が行われておらず、車道部の亀裂や、雨が降ると水溜りができてしまうなど、路面状態も悪化していた。

こうしたことから、地元からも舗装工事を求める声があがり、区としても早急に対応することとした。しかし、同通りは、15 年度当初に計画していた道路工事の既定路線には入っておらず、新たに生じる工事費用の問題、また、昼間は人通りが多いため工事は夜間の時間帯にしかできない、しかし、周辺が住宅街なので長期の夜間工事は避けたい…など、いくつかのクリアしなければならぬ問題があった。そこで、以上の条件を踏まえ、工費・工期を抑えつつ最大限の効果が得られる工法を検討した。

検討の結果、今回の工事ではオーバーレイという工法を採用することとした。通常の舗装工事では、既存のアスファルト面を掘り返して剥がし、新たにアスファルトを敷きなおす打替え工法が採られているが、オーバーレイは、既存の路面の上に新たに 5 センチのアスファルトを被せるという工法である。これによって、既存路面の掘り返しが省略され、工期・工費が節約できる上、工事騒音・振動等も抑制でき、周辺住宅街への影響も緩和される。今回の工事では、高岩寺から庚申塚までの約 570 メートルの工事区間のうち、路面状態が悪い約 200 メートルについては従来の打替え工法で施工し、比較的路面状態の良い約 370 メートルの区間でオーバーレイ工法を採用。ふたつの工法を組み合わせることにより、現状に即した効率的な工事を短期間に行うことができた。工費についても、区間すべてを従来の打替え工法でやった場合には約 3,500 万円がかかったところ、混合工法により約 2,000 万円にまで圧縮、4 割以上の経費節減が図られた。

さらに、思わぬメリットとして、車道部に 5 センチのアスファルトを被せたことにより、歩道との段差が 10 センチから 5 センチに緩和された。また、もともと段差が 5 センチしかなかった車乗り入れ部はフラットな状態になり、段差が解消された。

歩きやすくなった通りは、両側に並ぶ店のウィンドウショッピングも巢鴨に来る楽しみのひとつというおばあちゃんたちにも好評。担当の道路整備課でも、交差点歩道部分の段差解消や勾配の緩和等、国土交通省のガイドラインに沿った区道のバリアフリー化事業を昨年度からスタートさせているが、ガイドラインに沿った工事だけでなく、今回のように思わぬバリアフリー化が実践できたことで、「これからも色々な工夫をして、ユニバーサルデザインのまちづくりを進めていきたい」と語っている。

詳細：道路整備課